

《第 92 号》 *** ハゲタカジャーナル ***

学術論文をオンライン上で無料公開している「オープンアクセスジャーナル(以下 OAJ)」の仕組みを悪用した「ハゲタカジャーナル」が問題になっています。

【ハゲタカジャーナルとは】

通常、OAJ に論文を掲載するためには、著者が論文掲載料(APC: Article Processing Charge)を支払う必要があります。この APC の搾取を目的として、十分な査読を行わずに論文を大量に掲載する悪質な雑誌を「ハゲタカジャーナル」と呼びます。この他にも「Predatory journal」「悪徳雑誌」「粗悪雑誌」と称されます。

2013 年に Science 編集部と科学記者の John Bohannon 氏が、査読の実態を調査するため、ある程度の知識があれば気が付く欠陥を入れ込んだ偽論文を 304 誌の OAJ に投稿したところ 157 誌が論文を受理し掲載拒否したジャーナルは 98 誌だったという結果¹⁾を公開し大きな反響を呼びました。2018 年には、320 誌以上を発行している海外のハゲタカ出版社を調査した結果、過去 15 年弱の間に日本からも 5000 本以上の論文が投稿されていたことが報じられました。²⁾

1) Bohannon, John. “Who’s afraid of peer review?” Science. 2013;342(6154):60-65

2) “粗悪学術誌 日本から 5000 本 東大や阪大 論文投稿 業績水増しか” 毎日新聞朝刊, 2018.9.3, p.26

【ハゲタカジャーナルの特徴】

- ・メールで執拗に投稿を勧誘する
- ・ウェブサイトのスペルや文法に誤りがある
- ・編集委員がその分野の専門外の研究者になっている
- ・短期間での出版を確約する
- ・査読方針や過程、APC の詳細が明記されていない
- ・出版社の所在地や連絡先が明記されていないか、虚偽の情報が記載されている

実際に、ウェブサイトに APC が明記されておらず後から高額な支払いを要求されたり、当初提示してきた金額より高額な請求をされたりといった事例があります。また、投稿後にハゲタカジャーナルだと気が付いても取り下げができず、二重投稿とみなされる可能性があるため他誌への投稿ができなくなってしまうケースもあります。

【投稿する(ことで発生し得る)デメリット】

- ・研究者本人のみならず所属機関全体の信用が損なわれる
- ・文献検索データベースに収載されず、研究成果を認知してもらえない
- ・科学的に不備のある論文が出回ることで学術的混乱を招く
- ・APC を得ることが目的のジャーナルはいつ運営停止してしまうか分からず、ジャーナルサイトが閉鎖されると研究成果も消えてしまう

【チェックツールの活用】

ハゲタカジャーナルの実態は年々変化しており、特徴に当てはまらないからといって安全だとは言いきれません。怪しげな雑誌を見分けるためには、いくつかのチェックツールを活用する方法があります。

・Beall’s List

米国コロラド大学図書館員の Jeffrey Beall 氏が作成したハゲタカの疑いのある雑誌及び出版社の一覧。

2017年に一度閉鎖されましたが、現在は匿名の研究者が引き継いで公開を続けています。

• **Directory of Open Access Journals (DOAJ)** Infrastructure Services for Open Access (IS4OA)

世界中の OAJ 及び論文を収載したデータベース。掲載されるには厳格な審査基準があるため、一定の品質が保証されているといえます。

• **Journal Citation Reports (JCR)** Clarivate Analytics

学術雑誌の評価指標「Impact Factor (以下 IF)」を掲載しているデータベース。IF に似せた数値を表示し正当な雑誌であるかのように見せるものもあるため、JCR で確認するようにしてください。

• **Think. Check. Submit.** (日本語版は[こちら](#)をご利用ください)

学術出版組織が協力して作成した、投稿雑誌の信頼性を確かめるためのチェックリスト。

ただし、これらのチェックツールはあくまで判断の目安となるもので、現状ではハゲタカジャーナルを見分ける絶対的な指標は存在しません。健全とされていた雑誌がハゲタカジャーナルへ変化してしまう例も残念ながらあります。論文投稿の際には、単一の情報だけで判断せず複数の情報源を確認するほか、判断に迷う場合は指導者や同僚、図書館など他者に相談することが重要です。

図書館トリビア

ハゲタカジャーナルの他に「クローンジャーナル(Hijacked journal)」という偽サイトも存在します。本物のジャーナルを模倣したウェブサイトを作成し、著者から APC を騙し取ることを目的としたもので、国内の学術雑誌でも事例が報告されています。ウェブ検索すると正規のサイトより上位に表示される場合もあり、注意が必要です。

回避策として、発行元の学会や団体サイトを經由して正規のジャーナルサイトへアクセスする、複数の検索エンジンを使用して外観や URL の異なるサイトがないかを確認する他、クローンジャーナル一覧サイト [Retraction Watch Hijacked Journals Checker](#) も判断の一助となります。

メールマガジンに関するご意見・ご質問は、図書館 tosho@j.iwate-med.ac.jp まで

<編集・発行> 岩手医科大学附属図書館